

ブルガリアの反 LGBT 法改正の見直しを求める

2024/08/16

国連人権高等弁務官事務所

ブルガリアの反 LGBT 法改正に関して国連人権事務所 Liz Throssell 報道官は、「ブルガリアにおいて、学校での性的指向や性自認に関する議論を禁止する法改正案が成立したことを深く懸念する。同国が負う国際人権遵守義務に沿って再検討するよう強く求める。スティグマと誤情報に対処することは、受容と寛容を促進し、すべての人の人権を尊重する包摂的な社会を構築する上でとても重要である。ブルガリアにおいて LGBTQ の人びとの82%が学校でいじめを受けたと報告されているが、この新たな改正は、LGBTQ に対する人権侵害や学校でのいじめやハラスメントを深刻化させることにしかならないだろう。また、これは平等、無差別、表現の自由を保障するブルガリアの憲法や国際人権条約にも反している。ブルガリア当局が、学校での LGBTQ の若者に対する暴力、差別、いじめを防止し、撲滅するために措置を講じることは極めて重要である」とコメントを発表した。